

## 2. Diamox 負荷 $^{99m}\text{Tc}$ -HMPAO SPECT を用いたモヤモヤ病の脳循環の評価

高 沁怡 桑原 康雄 一矢 有一  
佐々木雅之 赤司 祐子 吉田 毅  
福村 利光 増田 康治 (九州大・放)

Diamox 負荷  $^{99m}\text{Tc}$ -HMPAO SPECT を用いてモヤモヤ病患者の脳循環を評価した。対象はモヤモヤ病 9 例 (小児 4 例, 成人 5 例) である。安静時測定後, Diamox 0.5-1 g を投与し, 5-10 分後に再度 HMPAO を投与し, 2 回目の撮像を行った。2 回目の画像から安静時画像を差し引くことにより, Diamox 負荷画像を得た。その結果, 安静時では 9 例中 3 例に明らかな血流低下を認めた。安静時に異常がなかったか, または軽度の血流低下のみの 6 例中 3 例で Diamox 負荷により明らかな異常が検出された。安静時に異常のみられた 3 例中 1 例でも負荷により他の部位に異常が検出された。以上, Diamox 負荷  $^{99m}\text{Tc}$ -HMPAO SPECT はモヤモヤ病患者の脳循環の評価に有用であった。

## 3. 出産直後に脳出血をきたした 2 例

成定 宏之 石野 洋一 村上 稔  
大成 宣弘 中田 肇 (産業医大・放)

妊娠期・産褥期に起こる神経学的合併症にはさまざまなものがあり, 特に脳出血は潜在性の動静脈奇形・動脈瘤等や, 血管作動性ステロイドホルモンの変化等により発現すると言われていた。今回われわれは, 出産直後に脳出血をきたした 2 例を経験した。症例 1 は, 40 歳女性・経産婦, 妊娠 39 週 1 日で正常分娩後に発症。左前頭葉皮質下・被殻領域に血腫を認めた。症例 2 は, 30 歳女性・初産婦, 妊娠 38 週 0 日で帝王切開にて出産後に発症。右前頭葉血腫および脳室内穿破を認め, 後に血管攣縮を生じた。以上の 2 例について, 脳血流 SPECT による経過観察を中心に若干の文献的考察を含めて報告した。

## 4. 結節性甲状腺腫における $^{201}\text{Tl}$ シンチグラフィの検討

三木 徹生 中別府良昭 米倉 隆治  
中條 政敬 (鹿児島大・放)

われわれの施設における甲状腺  $\text{Tl}$  シンチグラフィは,  $\text{Tl}$  静注後 5 分, 1 時間, 3 時間目に撮像している。今回われわれは 1988 年 1 月から 1993 年 10 月までの間に  $\text{Tl}$  シンチグラフィを施行し, 病理診断の得られた結節性甲状腺腫患者 83 例 86 部位を対象に, ① 5 分後像と 1 時間後像での診断能, ② 5 分後像と 3 時間後像での診断能, ③ 診断基準を変えることによる①と②の変化, について検討した。

その結果 5 分後像で腫瘍部に集積を認め, 1 時間後像で 5 分後像と比べ正常部との集積の比が不変, または増加した群を悪性, その他を良性とする診断法が, 臨床的に悪性を見逃さないために最も有用な方法と考えられた。その際の Sensitivity 97.3%, Specificity 69.4%, Accuracy 81.4% であった。

## 5. $^{99m}\text{TcO}_4^-$ が高集積を示した副甲状腺腺腫の一例

石丸純一郎 田原 隆 工藤 祥  
岸川 高 (佐賀医大・放)  
望月 良子 酒見 隆信 (同・腎内)  
杉本 俊彦 進 武幹 (同・耳鼻)

症例は 63 歳女性。一年前より慢性腎機能障害が増悪したため当院受診。高  $\text{Ca}$  血症, 副甲状腺ホルモン高値を認め, CT および超音波検査にて甲状腺右葉下極背側に 3 cm ほどの腫瘍を認めた。 $^{99m}\text{TcO}_4^-$ ,  $^{201}\text{TlCl}$  シンチグラフィを施行したところ, いずれにても上記腫瘍に一致して高い集積が認められた。Subtraction image ではむしろ腫瘍は不明瞭であった。腫瘍摘出術の結果, 病理組織診断は副甲状腺腺腫であった。

過去  $^{99m}\text{TcO}_4^-$  の高集積がみられた副甲状腺腺腫の報告は 5 例と稀で, うち 4 例は異所性副甲状腺腺腫であり, 異所性でなかったのは 1 例のみである。